

2月27日(月)

キリストのうちに隠されている

今日の力

2023年2月27日～3月5日

翻訳 岡元 裕子

編集 野口 恵美子

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

聖書朗読 コロサイ 3:1~4

神は聖徒たちに、この奥儀が異邦人の中であつてどのように栄光に富んだものであるかを、知らせたいと思われたのです。この奥儀とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。
コロサイ 1:27

ある友人が重い病気のために外出できなくなりました。安静にしていなければならないのです。出かけることが大好きな彼女ですが、今は家にいることが最善の選択であると分かっています。

パウロは、キリストにある私たちの真の自由について書いています。物理的には分からなくても、私たちは実際、キリストとともによみがえらされたのです。その隠された真実は、地にある私たちの境遇ではなく、上にあるものを思うようにさせます。この新しい人生の見方は、私たちに平安と休息を与えてくれます。私たちは自分が価値のある者だということを、神様や他の人々に対して証明するために働いてはなりません。実際、私たちはキリストにあって休んでいるのです。いつの日か、この真実がキリストの栄光のうちに現れるのを見るでしょう。キリストのうちに隠されているという約束とともに与えられる恵みを喜んで、お受けいたしましょう。

私たちのいのちがキリストのうちに隠されているとは、何という恵みでしょう！
私たちの安らぎを構成するのは、私たちが置かれている状況ではなく
どのような精神で状況に立ち向かうかにあるのです。

—エリザベス T・キング*

*訳注：アメリカのクエーカー教徒、『回顧録～手紙と日記の抜粋～』で
知られる。(1820-1856)

讃美歌 520

祈り 主よ、今日、キリストのうちに隠されている恵みを受け入れ、感謝することができますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 ラボック
シェリー・リームズ

2月28日(火)

選 択 を チ ェ ッ ク す る

聖書朗読 コロサイ 3:5~11

あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるものを思いなさい。

コロサイ 3:2

私はパン焼き用の棚を常に整理整頓していますから、目隠ししても料理できます。シナモントーストを焼くのに、棚に手を伸ばし、瓶のラベルを見ることなしに、シナモンの瓶を取ることができる自信があります。でも皆さんには、クミンと砂糖をかけたトーストはお薦めできませんよ、ということはお伝えしておきます。

さて翌日、私の自信はまだ損なわれていず、再びシナモントーストを焼きます。今度はラベルを読んで、シナモンかどうかを確かめます。分かったのは、塩は砂糖の代わりに絶対ならないということです。砂糖と塩は見かけはそっくりですが、味や使いみちが丸っきり違います。

私たちは人生や棚の上や家の中をいろいろ整理して、選択の際にいちいち考えなくても良いようにします。よく見ないで、物事を当たり前だと思っていると、まずい選択をすることになるかもしれません。

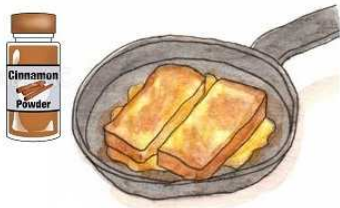
霊的生活においても、私たちはこうすることが当たり前と思い、あまり考えずにやることがあります。「神様は構われないでしょう。」「これは問題ないでしょう。」「まあ、これでいいでしょう。」と正当化しながら、私たちが即決する時、霊的優先順位が崩れてしまいます。自分で目隠しして、神様が見えなくなるのです。

人生を整えることは大事です。立ち止まってまず神様を見上げることは、私たちの選択をチェックすることになります。

讃美歌 355

祈り イエス様、私を愛してください、ありがとうございます。神様、私を愛してください、ありがとうございます。聖霊なる神様、私を愛してください、いつも一緒にいてくださって、ありがとうございます。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 ニューダーランド
ジーン・ガン



3月1日(水)

力 の 霊

聖書朗読 II テモテ 1:6~14

神が私たちに与えてくださったものは、おくびょうの霊ではなく、力と愛と慎みとの霊です。
II テモテ 1:7

シャンカールはインドで地方の医者として成功していました。妻とともに一人息子の誕生を祝っていたまさにその晩、彼は脊髄炎の激しい痛みと四肢麻痺を感じました。あつと言う間に彼は、まれにみる神経障害のせいで首から下が麻痺してしまいました。

村の友だちが大ぜいやって来て、彼らの信ずる神の力で、シャンカールを立てせ歩かせようとした。無論、何をやっても無駄でした。

ところが、シャンカールと家族が苦しみの中の中にいた時に、素晴らしいことが起こりました。一人の宣教師の助けによって、彼らはキリストを知り従うようになったのです。彼らは今やキリストのみからだの一部であり、内側から変えられる真の喜びを体験しています。

実際、シャンカールは喜びに溢れていて、村の人たちに話したくてたまりません。折りさえあれば、彼に起こったことを話すために、街の通りに連れて行ってもらいます。シャンカールは今、下半身付随で死にかけている者にも、真の変化をもたらす力を知っています。

証人とは、イエス様ご自身が持つておられた力を受けた者です。

どこにあっても、何をしても、人に知られようが、知られなかりうが、イエス様を喜ばせる証人になったのです。

—オズワルド・チェンバース*

*訳注：スコットランドのバプテスト派の伝道者、神学校教師、説教者。

(1874-1917) 彼の死後、妻ビディーが30年間を費やして、口述筆記を元に30冊以上の本を出版した。

讃美歌 324

祈り 父なる神様、私たちが真の変化を知ることができるように、イエス様と聖霊を私たちの人生に送ってください、ありがとうございます。イエス様のお名前によって。アーメン。

オクラホマ州 ベサニー
ビル・アドコックス

3月2日(木)

獅子の口から

聖書朗読 II テモテ 4:16~18

主は私を、すべての悪のわざから助け出し、天の御国に救い入れてくださいます。
主に、御栄がとこしえにありますように。アーメン。

II テモテ 4:18

使徒パウロは、たぶん私たちが“信仰”と呼ぶところの、自信に満ちてこう思っていました。神様の助けがあれば、福音のみことばが余すところなく宣べ伝えられ、すべての国の人々がみことばを聞くようになるであろうと。これこそイエス様のもとに来るべき“すべての国の人々”へのパウロの広大な幻であり愛情でした。彼の信仰の土台は、今まで変わらず守り続けてくださった神様にありました。神様は彼に寄り添い、宣教を達成するための力を与えてくださいました。実際、彼は、神様は“獅子の口から”すなわち非常な危険から救い出してくださいました、と言っています。

でも神様は、単に昔、パウロとともにいてくださった偉大なるお方であるだけではありません。パウロは、愛する弟子テモテに、主は私をどんな悪しきわざからも救い出してくださいと言っています。これこそ今日の私たちが持つべき自信（信仰）です。私たちは、パウロとともに、「神様は私を救い出し、なすべき務めを全うした後、無事、天にある御国に入れてくださいます。」と、そうしてくださいと良いのですがではなく、はっきりとそう言いましょ。神様が私たちにしてくださいましたことゆえに、心から信じ、そのような自信を持てますように。神様は、私たちが“そうなる”と良い”的なクリスチャンになることを望んではおられません。確固たる希望を持つクリスチャンであることを望まれます。

讃美歌 286

祈り 聖なる神様、あなたこそあらゆる賛美と誉れにふさわしいお方です。今までずっと私たちを助けてくださいました。そして、これから先、永遠に私たちの助けであります。お父様、イエス様のお名前によって感謝します。アーメン。

カリフォルニア州 ウェストレイク
ビル・ヘネガー

3月3日(金)

動機付け・教師としての神の恵み

聖書朗読 テトス 2:11~15

私たちが主イエスの恵みによって救われたことを私たちは信じますが、あの人たちもそうなのです。
使徒 15:11

神様の恵みの素晴らしさ、偉大さは測りしれません。しかし、私たちは恵みを考える時に、本日の聖書朗読箇所にはっきりと描写されているように、たいいてい赦しと救いの領域で、あるいはそこだけで考えてしまいがちです。

でも、恵みには、あまり多くの人たちには知られていないような、興味深い第二の面があるのです。恵みは、私たちの人生を整える大きな動機付けである、と考えたことはありますか。恵みは、人生における不敬虔とこの世の力に対して“no”（捨て、あるいは拒み）、このクリスチャンの世にあって、慎み深く、正しく、敬虔に生活するようにと教えています。

宗教上の規則を制定・施行するのを専門とする律法主義とは違って、恵みは全く異なる動機で働きます。その恵みを部分的にでも理解すれば、罪人である私たちが自分自身を救うことなどできないということが分かるはずですが。つまり、恵みは、感謝、賞賛、恩義、実に負債と言っても良いほどの恵みの力学によって働くのです。律法主義は、恐怖を掻き立て、しばしば法を守れないことからくる挫折を招きます。恵みは、前向きな意味で従順に導きます。恵みの出現は、イエス様が人となられた時に完全に現れました。『ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。…』（ヨハネ1:14)

聖歌 229

祈り 天のお父様、あなたの恵みと、その恵みゆえになしてくださいましたあらゆることに対して、今より後、とこしえに、畏れかしこみ感謝し続けることができますように助けてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 マーシャル
キース S・ホッジス

3月4日(土)

賛美

聖書朗読 ヘブル 13:7~16

キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝に溢れて心から神に向かって歌いなさい。コロサイ 3:16

“賛美”という語は、“価値”とか“価格”を意味するラテン語が語源です。最も重要な賛美は、神様への賛美であり、聖書に度々、見られます。

集会の時であろうが、一人だけの時であろうが、私たちは心からの賛美をお捧げしたいと思います。イエス様は、『この民は口先でわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。彼らがわたしを礼拝しても、むなしい。人間の命令を、教えとして教えるのだから。』とおっしゃいました。(マタイ 15:8~9) イエス様は、うわべだけの礼拝のふりではなく、心からの礼拝を望まれました。

たたえよ 主の民 みつかいと共に
恵みにあふれる 父・子・御霊を
ートマス・ケン*

*訳注：イングランドの聖職者、讃美歌作者。(1637-1711)

心を尽くして神様を礼拝する時、私たちは神様をほめたたえます。私たちが知る神様の偉大さを声高らかに歌う時、他の人たちの心を神様へと向かわせる助けになるでしょう。神様は賛美を受けるにふさわしいお方です。

讃美歌 443

祈り お父様、私たちがあなたを心を尽くし、知性を尽くして、賛美し、ほめたたえる時、助けてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

カリフォルニア州 サン・ディエゴ
キャサ・ウィンザー



Thomas Ken
(1637-1711)

3月5日(日)

教師のかしら

聖書朗読 ヤコブ 3:1~12

私の兄弟たち、多くの者が教師になってはいけません。ご承知のように、私たち教師は、格別厳しい裁きを受けるのです。ヤコブ 3:1

先生たちは、私の人生の重要な部分を占めてきました。良い先生もいれば、それほどでもない先生もいました。初めて私に、先生になったらと言ってくれたのは、ある小学校の先生でした。それから、今でも私が、こうなってはならないという戒めにしている先生もいました。お針子(はりこ)としての私には匙を投げましたが、指導者の役に着くように後押ししてくれた、家庭科の先生のことを思い出します。ご自身には子どもはいませんでしたが、自分が教えるすべての子どもに責任があると教えてくれた、大学の教授のことも思い起こします。

教師研修で、私は最初の授業を、多くの人が教師になってはいけない、教師はより厳しい裁きを受けるから、と書かれている、ヤコブ3章1節で始めました。生徒たちに、教えることには重大な責任が伴うのだということを知ってもらいたかったのです。

イエス様は、教師のかしらたる、あらゆる特性を示されました。どのように話したらよいか、時宜にかなった質問の仕方、教えにふさわしい時を利用すること、等々、挙げればきりが無いほど、すべてをご存じでした。イエス様は、我々が教授法の授業で教えるすべてを例証されました。

でも、これらの技能が、イエス様を教師のかしらとしたものではありません。それよりも、イエス様が手ぬぐいを取って腰にまとわれ、たらいに水を入れて、弟子たちの足を洗われたがゆえにです。教師のかしらは、しもべなのです。

聖歌 398

祈り 神様、イエス様と、イエス様が示された模範を感謝します。仕え方を教えてください。イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

テキサス州 オースティン
ジョイス・ハーディン

